

2012MHC 登山講習 新雪の常念岳登山 報告

10/31AM6:30 安曇野合同庁舎駐車場に7名が集合し、2台の車で出発。天候は快晴。紅葉する常念山麓を登り、一ノ沢登山口へ向かう。登山口で準備を整えAM7:40 一列縦列で出発する。10分程進むと、樹齢400年の榎の木が立つ“山の神”に到着。手を合わせ、登山の無事を祈る。



「山の神」に無事を祈って合掌



枯葉の積る山道を登る



森林帯の急な雪道を登る

枯葉が降り積もる唐松林の山道を2時間も登ると、沢が合流する河原に出る。展望が開け見上げると、僅かに新雪を頂く常念岳を望む。ここから、右岸に渡り、川沿いの凍りついた急な登りを進む。再び左岸に渡り、新雪に覆われた山腹の巻き道を滑らぬように注意して登り、1時間程で最後の水場に到着する。

小休止後、森林帯の急な雪道を、一步一步登る。木々の間からは常念岳山頂へ続く、豪快な稜線が迫ってくる。東に遠く霞む浅間山を望み、ようやくPM12:15 涼風吹く乗越に登り出る。突然正面に、槍ヶ岳から穂高への白銀に輝く稜線が、目に飛び込んでくる。登りの疲れも、いっぺんに吹き飛ばようだ。



乗越から突然、白銀の槍・穂高岳を望む 横通岳中腹から望む常念岳 AM6:10頃雲海を輝かせて朝陽が昇る。

常念小屋で昼食を摂り、PM1:30 軽荷で横通岳方面へ向かう。冷風の中、低木帯を抜け山腹から振り返って仰ぐと、白雪を頂く常念岳が雄々しい。西方には、午後の陽に霞む槍、穂高岳の連峰が続く。山腹で憩いを楽しみPM3:15 小屋へ帰還。夕食後、外に出ると満天の星空。天空に白鳥座、東にW形状のカシオペア座が光り輝き、これらを頼りに北極星を探す。明日の好天を期待して、就寝する。



道標と白銀の槍ヶ岳



9合目上部の急な雪斜面



常念岳山頂へ見事登頂する

11/3AM5:00 起床。無風の空に星が瞬いている。朝焼けの展望を楽しんだ後、準備を整え、AM7:30 常念岳山頂めざし、いざ出発。所々凍りついた新雪を、しっかりと踏んで、体を上へ迫り上げる。西に真っ白な槍・穂高岳の稜線を眺め、東に雲海に浮かぶ浅間山の雄大な姿を遠望する。7合目の岩場で小休止、前方を仰ぐと目指す山頂が、もうすぐ近くだ！。9合目上部の急な雪斜面を登り切り、なだらかな岩稜線を辿ると、AM9:15 常念岳山頂2857mに、全員見事登頂する。「バンザーイ！」

山頂は、花崗岩石最上部に小さな祠が立ち、その後方、西南方向に北アルプスの重鎮、新雪の穂高岳連峰が豪快に望まれる。南方向には、白銀の乗鞍岳、木曾駒ヶ岳が聳え、常念岳尾根伝いに、雪を被った蝶ヶ岳が続き、その背後には中央アルプスが遠望される。東に、青く霞む南アルプス連峰、八ヶ岳の峰々が連なり、その鞍部に円錐形状の富士山が、一層高く大きくその姿を見せている。私達は、昔登攀した、一つ一つの峰々に思いを巡らせながら、至福の45分を過ごした後、下山を開始する。



北アルプスの重鎮、豪快に聳える新雪の穂高岳連峰



常念岳山頂からの富士山遠望

AM10:45、無事常念小屋に帰還。熱いラーメンで早めの昼食を摂り、AM11:50 常念小屋から下山を始める。往路と同じノ沢ルートを下り、PM3:15 登山口に到着。PM3:45、参加者の車が待つ安曇野合同庁舎駐車場で解散とする。「真っ白な山々の展望と新雪の常念岳への登頂、心洗われるような至福の山頂でのひと時は、生涯忘れられない思い出となったことでしょう。」

MHC 登山講習責任者 MHC 理事長 鈴木雅則